



「二回ひねり」

作・長谷川集平



川べりで笛を吹いていたら、空から大きなシートにくるまった何かに向かって岸に落ちた。「ん？何だろ、あれ」ミヨは板の橋を渡って草むらに分け入った。

「あっ」草に埋もれて倒れているのは天使だった。眠そうなのでもきれいな目の青年。ワンピースを

着て背中に羽根が生えている。「失敗失敗」と天使はミヨを見上げて言った。「前方伸身宙返り二回ひねりをやろうとして羽根がもつれました」と照れ笑いして「よっ」と立ち上がった。

「体操してたんですか？」とミヨはあきれて聞いた。「はい、きよ

うは県立体育館で選考会を見ました。床の素晴らしい女子選手がいまして、地上でできるんだから空なら簡単だろうと思ったんですが、いやはやカッコ悪いことで」

天使の手を引いて板の橋を戻って、堤防の上に並んで腰かけて、ミヨはまた笛を吹いた。

「ああ、いい曲だ。初めて聴くのが出ました」天使はそう言うと、ふわりと浮き、すーっと上昇してミヨに手を振りながら白い雲に溶けて消えた。

次の日の昼休み、あたりをきよろきよろ見回しながらケンが近寄ってきて「おまえ、土手の上でホームレスのおっさんと話してただろ。あれ彼氏？」と聞いた。そう見えたか、とミヨは思った。

「初めて会った人。でもさ、すぐに遠くの家に帰っちゃった」

「ホームレスがか？」ケンが目を丸くした。

絵本作家・ミュージシャン。1955年兵庫県姫路市生まれ。長崎市在住。76年「はせがわくんきらいや」で絵本デビュー。絵本は「トリゴラス」「日曜日の歌」「ホームランを打ったことのない君に」(第12回日本絵本賞)「およぐひと」「むねがちくちく」など多数。児童文学に「見えない絵本」(第20回赤い鳥文学賞)など。



* 次回の「いちまいの絵本」は10月29日に掲載予定です。